

## 第 53 回新潟化学療法研究会

日 時 平成 26 年 6 月 14 日 (土)  
午後 5 時 15 分～  
会 場 新潟東急イン 3 階 明石の間

## I. 一 般 演 題

## 1 稀少な菌種による非結核性抗酸菌症の 2 例

茂呂 寛・野寄幸一郎・朝川 勝明  
三浦 理・田邊 嘉也・各務 博  
成田 一衛

新潟大学医歯学総合研究科  
呼吸器感染症内科

わが国における肺非結核性抗酸菌症のうち、*Mycobacterium avium complex* (MAC)、*Mycobacterium kansasii* が原因菌の大半を占めるが、近年、菌種同定法の進歩もあり、それ以外の菌種による肺感染症に遭遇する機会が増えている。これらの菌種の場合、発症頻度は稀ではあるが、治療指針が定まっていないため、治療開始のタイミング、薬剤の選択と使用量、治療期間など、判断に迷う場面も多い。

今回、比較的稀な菌種である *M. abscessus* と *M. szulgai* による肺疾患をそれぞれ 1 例ずつ経験したため、ここに報告する。

## 2 血液透析患者におけるパズフロキサシン (PZFX) の TDM を行った 1 症例とレボフロキサシン (LVFX) の蛋白結合率の検討

三星 知・山田 仁志・長井 一彦  
岡島 英雄\*・福本 恭子\*\*・上野 和行\*\*

下越病院薬剤課  
同 内科\*  
新潟薬科大学薬学部\*\*

血液透析患者においてパズフロキサシン (PZFX) を 1,000mg 透析毎に投与し TDM を行っ

た結果、血中濃度が高めだったため減量した症例を報告する。TDM を行った結果、PZFX は透析毎に 500mg 投与で十分と考えられ、透析により 30～50% 除去され、胸水の移行性は良好でアルブミン、グロブリン製剤と尿毒症物質により蛋白結合が大きく変動する可能性が考えられた。

血液透析患者におけるレボフロキサシン (LVFX) 投与量は初回 500mg、その後は透析終了後に 250mg 投与が可能であり、*in vitro* における蛋白結合率は 26～36% と報告されている。一方、血液透析患者における LVFX の蛋白結合率がどの程度であるかの報告はない。我々は血液透析濾過患者のパズフロキサシン投与例でパズフロキサシンの蛋白結合率が大きく変動した症例を報告している。そのため低アルブミンとなりやすい血液透析患者では蛋白結合率が腎機能正常患者とは大きく異なる可能性が考えられる。そこで血液透析患者における LVFX の蛋白結合率を検討し、併せて LVFX の蛋白結合率について基礎的検討を行ったので報告する。

血清中 LVFX 濃度測定は固相抽出法を用いて、HPLC 法にて測定した。また限外濾過法により蛋白結合率を測定した。また基礎検討としてヒト血清、ヒトアルブミン、ヒトグロブリンなどを用いて限外濾過法により蛋白結合率に及ぼす影響などを検討した。血液透析患者における LVFX 蛋白結合率は 30～40% を示し、基礎的検討でも平均蛋白結合率は 36.5% であった。また、アルブミンとグロブリン濃度の低下に伴い蛋白結合率の低下を認めた。

低アルブミン傾向である血液透析患者においても蛋白結合率は大きな変動を認めなかった。また、LVFX もパズフロキサシンと同様にアルブミンだけでなくグロブリンとも結合する事が示された。